

科目名	日本語教育法1			ナンバリング	JPN152	授業形態	講義
対象学年	3	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	玉懸元	担当教員					

授業の概要	近代以降、日本語教育は戦争の歴史とともに歩んできた。たとえば日清・日露戦争があり、日本の領土が広がると、その地で外国人に対する日本語教育が必要とされたのである。この授業は、そのような日本の歴史と日本語教育とのかかわりについて学ぶことを第一の目標とする。 ところで、日本語教育の教授法は、さまざまな外国語教授法を取り入れながら磨き上げられてきた。特に「オーラル・メソッド」「オーディオリンガル・メソッド」との関係は密接である。この授業では、さまざまな外国語教授法について学び、それが現代の日本語教育の教授法にどのように活かされているかを学ぶ。これがこの授業の第二の目標である。 (※)日本語教員を目指す人はもちろん、「効率的な外国語の学び方」「増え続ける在留外国人」「今後の日本社会における外国人とのコミュニケーション」といったトピックに関心ある人の受講も期待している。						
到達目標	(1) 近代以降の日本史と日本語教育史とのかかわりについて説明できる。 (2) 主な外国語教授法—文法訳読法、オーラル・メソッド、伝統的な日本語教授法、オーディオリンガル・メソッド—について、その概要を説明できる。 (3) (2)の主な外国語教授法が現在の日本語教育における教授法にどのように活かされているか、説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	・「日本語教育文法」「日本語学習アドバイジング」を履修してあることが望ましい。 ・授業時間中に受講生同士で議論する時間を設ける。積極的に意見を交わしてもらいたい。 ・授業時間中には、ここに示した参考書以外にも、授業内容の理解や発展的考察に役立つ文献等を多数紹介する。受講者それぞれ、自学に活用してほしい。						
ディプロマポリシーとの関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
(1) 授業で課されるすべての課題に真摯に取り組み、提出すべきものを提出している。	(1) 毎回の授業において発言の回数等から意欲・関心が認められ、授業で課されるすべての課題に真摯に取り組み、提出すべきものを提出している。 (2) 近代以降の日本史と日本語教育史とのかかわりについて説明できる。 (3) 主な外国語教授法—文法訳読法、オーラル・メソッド、伝統的な日本語教授法、オーディオリンガル・メソッド—について、その概要を説明できる。 (4) (3)の主な外国語教授法が現在の日本語教育における教授法にどのように活かされているか、説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		60%
宿題・授業外レポート	○	○			○		20%
授業態度・授業への参加		○	○	○	○		20%

課題、評価のフィードバック	原則として毎時間、授業の終わりに、当日の授業内容に関連する課題を提出してもらう。授業後、提出された課題から、クラス全体で共有しておくことが有益と考えられるものを選出する。翌週(原則)の授業で、選出しておいた課題を適宜プロジェクター等も活用しながらクラス全体に紹介し、教員のコメントを加える。以上をもって課題に対するフィードバックとする。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	この授業全体に関するガイダンスを行う	
	第2回	日本の歴史と日本語教育(1)	近代～第二次世界大戦まで	
	第3回	日本の歴史と日本語教育(2)	第二次世界大戦～1980年代まで	
	第4回	日本の歴史と日本語教育(3)	1980年代～現在	
	第5回	外国語教授法(1)	文法訳読法① 文法訳読法とは何か	
	第6回	外国語教授法(2)	文法訳読法② 文法訳読法の問題点	
	第7回	外国語教授法(3)	オーラル・メソッド① パーマーの言語観	
	第8回	外国語教授法(4)	オーラル・メソッド② 幼児の言語習得と、言語学習の5習性	
	第9回	外国語教授法(5)	オーラル・メソッド③ 置き換え表による練習	
	第10回	外国語教授法(6)	伝統的な日本語教授法	
	第11回	外国語教授法(7)	オーディオリンガル・メソッド① オーディオリンガル・メソッドの成立まで	
	第12回	外国語教授法(8)	オーディオリンガル・メソッド② 行動心理学、構造言語学とのかかわり	
	第13回	外国語教授法(9)	オーディオリンガル・メソッド③ オーディオリンガル・メソッドの練習法	
	第14回	外国語教授法(10)	現在の日本語教授法	
	第15回	まとめと試験	第1回～第14回の授業を振り返り、この授業で学んだことをまとめる。また、その理解度を問うための試験を行う。	
	試験	定期試験は行わない。		
授業の進め方		原則として講義形式。文献講読やディスカッションも行う。適宜、授業内で小テスト、授業外で宿題を課す。		
授業外学習の指示		参考書を活用しながら、各回の授業内容について予習・復習を行うこと。 （授業外学習時間： 毎週 180 分）		

教科書	適宜資料を配付する。
参考書	・関正昭(1997)『日本語教育史研究序説』スリーエーネットワーク ISBN-13: 978-4883190867 ・西口光一(1995)『日本語教授法を理解する本 歴史と理論編』バベルプレス ISBN-13: 978-4931049864 その他、授業中に指示する。
参考URLなど	適宜授業中に指示する。
その他	